

# あいち病害虫情報 最新情報

平成28年 6月17日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 梅雨入りは平年より4日早い

6月4日頃に梅雨入りしました（やや早い）。名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、期間の前半は気温がかなり高くなり、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。

## いもち病（葉いもち）

葉いもちは、例年6月下旬から発生し始めます。葉いもちを対象とした育苗箱施薬をしていない場合は、葉いもちの早期発見、早期防除に心がけましょう。なお、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第1号」に葉いもち感染好適日の判定結果を掲載しましたので、参考にしてください。

## ウンカの飛来に注意

セジロウンカなどのウンカ類やコブノメイガは、梅雨前線の活動に伴い断続的に飛来します。ほ場の観察をしっかりと、発生状況の把握に努めてください。なお、飛来の状況はウンカ情報として適宜提供していきますので、防除の参考にしてください。

## 斑点米カメムシ類

予察灯においてミナミアオカメムシが捕獲されています。本虫は、コムギ収穫後、タデ科雑草やネズミムギ（イタリアンライグラス）で生息しています。また、カスミカメムシ類は、畦畔、土手及び休耕田などで出穂したイネ科の雑草で繁殖します。ほ場周辺の除草を徹底し、繁殖を未然に防ぎましょう。

## 果樹の病害

ナシ黒星病は風雨により発生が拡大しますので、昨年多発したほ場では特に注意し、防除を徹底しましょう。

モモせん孔細菌病は、風を伴った雨で発生が急激に拡大します。風当たりの強いほ場では防除を徹底しましょう。

ブドウ黒とう病及びブドウべと病の発生は、おおむね平年並です。ただし、降雨が続くと短期間に発生が急増します。発病房や発病葉は見つけ次第除去するとともに速やかに防除しましょう。ブドウ晩腐病は、7月中旬まで降雨が多いと発生が多くなりますので、昨年発生が多かったほ場では特に注意し、発病房は見つけ次第除去しましょう。

カキの角斑落葉病及び円星落葉病の感染時期です。今後の風雨により感染しやすくなります。特に昨年発生が多かったほ場では防除を徹底しましょう。

## ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ第1世代成虫の誘殺数はおおむね平年並ですが、誘殺ピーク時期は、平年並に比べてやや早くなっている地点があります。今後は途切れなく発生し、世代数を重ねるほど虫の密度が高くなります。モモ、ナシでは果実が食害されますので、収穫前日数に注意して防除しましょう。

## チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマの黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多く、誘殺時期もや

や早い状況です。また、ほ場周囲におけるイヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数ではやや多いほ場もありますが、おおむね平年並です。この時期は軟弱な葉や新梢で本種が増殖しますので、不要な枝は取り除くなど栽培管理に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期である成虫の発生ピークは、アメダス観測地点で有効積算温度から予測日を算出したところ、5月31日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」における予測日とほぼ同じで、中山間部に位置する稲武を除いて第2世代成虫は6月8日から16日で、豊田を除き前年より1日から4日早くなりました。また、第3世代成虫も、名古屋6月30日、大府7月3日、蒲郡、伊良湖7月4日、愛西7月5日、豊田、岡崎7月6日、南知多、新城7月7日、豊橋7月8日で前年より2日から7日早くなると予測します。発生ピーク予測を参考に薬剤防除を実施しましょう。

ウンシュウミカンでは、6月上旬から7月にかけて果梗部の被害が発生しやすくなり、注意が必要です。ブドウでは、袋掛けまでに防除を徹底しましょう。

## 果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は、新城市の山際では引き続き多い状況で、西三河や東三河の平坦部においても、多くはありませんが定期的に誘殺されるようになってきました。また、ブドウなど果樹園へも徐々に飛来し始めている状況です。越冬世代成虫の発生量が多い年は、例年6月中旬以降に果樹園への飛来が急増します。果樹園への飛来状況をよく確認し、まとまった飛来を確認したら防除を徹底しましょう。

## トマト黄化葉巻病、キュウリ黄化えそ病の伝染源を減らしましょう！

施設トマト（促成・半促成栽培）の栽培が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬します。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

## キクの病害虫

白さび病の発生が多い地域があります。発病が見られるほ場では、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。5月31日発表の「平成28年度発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

豊川市のキク（露地）ほ場では、フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数が多い状況です。オオタバコガ幼虫による生長点への加害を防ぐため、ほ場への成虫の飛来及び幼虫の発生に注意し、適宜防除を行いましょ。

### ○農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 土壌くん蒸後はしっかり被覆
- 2 適切な保管で誤飲・誤食を防止
- 3 住宅地などの周辺に配慮

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820